

危機に立つ生徒達のための学校

— 米国イーグル・ロック高等学校の教育 —

荻原 彰

アメリカのコロラド州エステスパークに所在するイーグル・ロック高等学校は、アメリカの高等学校教育の危機に対応するデモンストレーション・スクールとして設立され、その優れた実績によって全米の注目を集めている。イーグル・ロックの教育の特徴は、危機に立つ生徒を救うという明確な使命とその使命を支える理念のもとに設立された学校であること、自然体験の教育的価値を最大限利用していること、全教科において、環境教育をはじめとする学際的教育を行っていること、教科の教育と並んで人格的成長を重視していることである。これらの諸特性を支えているのは、周到に設計されたカリキュラムとアメリカ・ホンダからの資金である。本稿では筆者がイーグル・ロック高等学校で行ったインタビューを元にこれらの理念・特性を概説する。

キーワード：環境教育、教師教育、高等学校、アメリカ合衆国

はじめに

既に多数の識者によって指摘されているように、日本の学校は、学校内暴力やいじめに見られるような規範意識の低下、高等学校の中退者の増加、学力の低下といった教育問題（以下、学力・規律問題と呼ぶ）に直面している。

学力・規律問題は多くの先進国に共通して見られる問題ではあるが、とりわけアメリカでは深刻な問題と考えられており、教育関係者の問題意識も強い。それだけに学力・規律問題に対する多様な取り組みも行われており、その一つとして、自然体験など環境教育を媒介として学力・規律問題を解決していくアプローチが行われている¹⁾。筆者は日本の教育にもこの手法を取り入れたいと考え、研究を行ってきたが、本年9月、環境教育により学力向上やドロップアウトの問題に対し、劇的な成果をあげている2つの学校（メイン州ポートランドのキング中学校、コロラド州エステスパークのイーグル・ロック高等学校）を訪問する機会を得ることができた。本稿では、このうちイーグル・ロック高等学校（以下、イーグル・ロックと略する）について、その教育理念と実践を報告する。

なお以下の記述はイーグル・ロックの学校長・教師へのインタビューとイーグル・アイズ（年3回発行されるイーグル・ロックの機関誌）、前イーグル・ロック教職開発センター長ロイス・ブラウンの「Engaging the Disengaged」²⁾、イーグル・ロックの野外活動の授業資料「Eagle Rock School Wilderness Journal」³⁾及びイー

グル・ロックのウェブサイト参照した。

I. イーグル・ロックの概要

イーグル・ロックはロッキー・マウンテン国立公園の玄関口であるコロラド州エステスパークに所在する小規模高校（定員96人）である。豊かな自然に恵まれ、640エーカーに及ぶ広大な校地のうち、500エーカーはエステスパーク・ランドトラストに管理を委任し、開発行為を行わない土地として自然を保全している。中心部の140エーカーが学校敷地として利用されている。140エーカーのゆったりした敷地の中に理科棟、芸術棟、教職開発センター、体育館などの学校施設、食堂、宿舎（生徒・教職員はすべて住み込み）が散在し、敷地の諸所に生徒の芸術作品が展示されている（図1）。

イーグル・ロックは1993年にアメリカ・ホンダ自動車の社会貢献事業の一環として設立された。ブルックハート校長によると、当時、アメリカ・ホンダの幹部であったマコト・イタバシとトム・ディーンズがホンダの社会貢献として何を行うべきか調査するように命ぜられ、6ヶ月間、カリフォルニア、ニューヨーク、ミネソタ、フロリダ、ニューメキシコ、ボストンというようにアメリカ国中を視察し、アメリカのどの地域社会でも、高校からの中退、学校に適応できず、危機的な状況にある若者の増加が重大な問題になっていることを知り、この問題に有効に対処するための「デモンストレーション・スクール（全米のモデルとなる学校）」をつくることにしたということである。

このような設立の経緯を受け、イーグル・ロックは、全米から高等学校を中退した生徒や繰り返し退学処分

三重大学教育学部理科教育講座

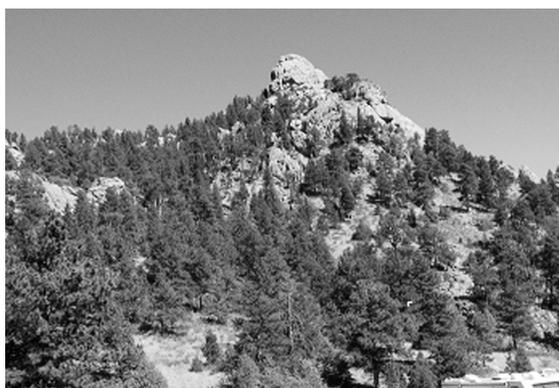


図1 学校の裏手の岩山 学校はこのような自然の中に位置する



図2 理科の授業でスケッチについて説明するスタッフ

なっている生徒を奨学金付きで受け入れ（コロラド州からの生徒は50%）、その立ち直りを促す教育実践を行うと同時に、併設している教職開発センター（Professional Development Center）を通じて、イーグル・ロックの成果の基礎となる教育理念や教育手法を伝える教師教育のセンターともなっている。教職開発センターは、ウェブサイトやDVD作成等でイーグル・ロックの教育を伝え、学校へコンサルティング・サービスを行い、世界中からの年2,000人に及ぶ訪問者の見学・研修を受け入れている。またパブリック・アライズ（地域の非営利活動に従事する青年リーダーの育成を支援する全米規模の市民団体）の奨学金を受けた12人のフェローを1年間受け入れ、イーグル・ロックの教育活動を通じた研修（フェローシップ）を行っている。フェローは住み込みで生活しながら、イーグル・ロックの教師の指導を受け、教育実践に参画する。フェローシップの重点は、協働・多様性・共同体への参加に重点をおいた、教育の共同体作りの理念とスキルの習得に置かれる。

フェローシップ修了生の進路を見ると、たとえば、2009年の例で言えば、音楽教育フェローのリズ・ベリアントはサンフランシスコの音楽教師、サービス・ラーニング・フェローのマイク・ダンはフィラデルフィアで新しい学校の設立スタッフ、「社会と文化」フェローのベルトラ・ギーエンはイーグル・ロックの教師、野外教育フェローのベス・ジャクソンもイーグル・ロックの教師、「言語と文学」フェローのアンドレア・ファリントンはペンシルベニア大学の大学院生となっている。健康カウンセリングフェローのリビー・コイルはボストンで学校または教育コンサルタント機関への就職を希望しており、数学フェローのアリッサ・チェンは長期の旅行後、教師になる計画を立てている⁴⁾。このようにフェローシップを終えた研修生は全米の教育機関に散っていき、それぞれの場所でイーグル・ロックの考え方を広めていく役割を担うのである。

イーグル・ロックには学年制はなく、それぞれの生徒

に対して個別化されたカリキュラムを修了すると卒業できる。9-12月、1-4月、5-7月の3学期制で各学期の終了時に卒業、各学期の開始時に入学があるので、年3回の卒業と入学があることになる。卒業に必要な年限は決められておらず、平均して6-7学期で卒業するが、4学期で卒業した生徒もいる。

15の教科が存在し、理科、数学などの伝統的教科以外に、サービス・ラーニング、野外教育、演劇等も扱われる。学習はほとんどの場合、個人または集団で特定のプロジェクトを遂行するという形で行われ、プロジェクトはいくつかの教科にまたがることが多いので、必然的に学際的なものになる。たとえば、筆者の参観した「観察の技能」（Art of Observation、図2）という科目では植物のスケッチを行っていたが、シラバスによると、この科目は生物学と芸術の2教科にまたがった科目であり、目的は「生物の形態と機能の関連を学習すること」と理科室に飾る「生物学的芸術作品」を制作することである。

各授業では、成績の等級は付けず、合格か不合格かのどちらかである。テストでの評価はほとんど行われておらず、課題の提出や学習成果のプレゼンテーションをすることによって評価される。

II. イーグル・ロックの教育の特徴

以下、イーグル・ロックの教育の特徴を述べる。

1 対象となる生徒の特定と8+5=10の理念

前述のように、イーグル・ロックは危機に立つ生徒（At Risk Students）とそれらの生徒を抱え、悩んでいる教師のために設立された学校である。ブルックハート校長（図3）は、学校に教職開発センターを併設した目的は何かという我々の問いに対して、それを卓抜な比喻で説明してくれた。彼はペンを机の端に置き、この今にも落ちそうなペンをイーグル・ロックの生徒になぞらえた。そしてペンを真中に置き直し、安定した状態にあるペン



図3 ブルックハート校長 長時間のインタビューに快く答えてくれた。

をハーバードやスタンフォードにいくような生徒になぞらえ、次のように語った。

— 教職開発センターの目的は「可能性の提示」であり「何が有効なのか」をしめすことだ。教職開発センターと学校は共生の関係にある。イーグル・ロックに他の学校の先生がやってくるととてもおどろく。かれらの生徒は寝ていたり、侮蔑的な態度を取ったりする。「どのようにしたら、こんな学校ができるのか」「どうして彼らはこれほど学習に熱心になれるのか」に教師達は興味を持ち、この学校で学んだことを自分の学校に持ち帰る。

ハーバードに行くような生徒は（放っておいても）大丈夫だ。イーグル・ロックにくるような生徒はいまにも社会からこぼれおちそうになっている生徒であり、この生徒達をどう救うかを、教師たちはイーグル・ロック高校で学んでいく。それが教職開発センターをここに置く理由だ。

イーグル・ロックの第1の教育の特性は、このように教育対象を、危機に立つ生徒、社会からこぼれ落ちる寸前の生徒達に特定し、それらの生徒達を救うための教育に特化していることである。生徒の中には、暴力行為のため、10校もの学校を退学となった生徒もいる。そのような生徒に最後の希望を与えるのがイーグル・ロックの使命である。

この使命を具現化するため、イーグル・ロックは以下のように8つのテーマ、5つの期待、10の誓約という理念を掲げている。8つのテーマとはイーグル・ロックの教育を通じて獲得するべき市民性と個人の特性である。

市民性の内容は

- ・他への奉仕・異文化理解・民主的統治・環境スチュワードシップ（環境への思いやり）であり、

個人の特性は

- ・学問性・健康・精神的発達・美的表現

である。

一方、5つの期待とは

- ・知識基盤の拡大と構築・効果的なコミュニケーション

- ・健全な人生の選択と創造・世界市民としての活動への参加・公正なリーダーシップ

である。

10の誓約は

- ・他の人々と調和を持って生きる。・知性と精神と身体を育てる・話すこと、書くことを通してコミュニケーションすることを学ぶ・イーグル・ロックをはじめとする共同体に貢献する・地球への責務を果たす・健康を増進する個人的選択を行う・自分の中に潜む芸術性を呼び覚まし、成長させる・公正なリーダーシップを発揮する能力を高める・市民性を発揮し、民主的生活を実践する・揺るぎないモラルや倫理規範を確立する

である（訳はイーグル・ロックの担当者からいただいたイーグル・ロックの日本語概要を参照した）。

ブルックハート校長によると8つのテーマは校長が提案し、5つの期待はイーグルロックの初期の教師達が、「卒業生に必要な能力は何か」を議論した中から抽出され、最後に校長がテーマと期待をまとめて10の約束としたということである。それを表すため、 $8+5=10$ というキャッチフレーズも作られた。この $8+5=10$ の理念は月曜と水曜の全体集会の場で必ず取り上げられる。同性集会（性別ごとの集会）、ハウス（宿舎）ごとの集会などその他の集会でも、また授業でも、具体的な問題の中にこの理念をどう活かすかが絶えず吟味されている。その意味で $8+5=10$ は校長室の前に額に入れて掲示され、普段は忘れられているような単なるキャッチフレーズにとどまるものではない。そのことはある卒業生からの手紙の一節「 $8+5=10$ がなければ、イーグル・ロックは失敗した多数派の学校と同じような学校になっていただろう。イーグル・ロックでは、全ての活動が、 $8+5=10$ の考え方により、共同体（イーグル・ロック）の生活に有用かどうか判断される。だからこそイーグル・ロックは言葉と手段と、統合された目的を持つことができるのだ²⁾」からも窺うことができる。 $8+5=10$ はイーグル・ロックの生活の中に血肉化された理念となっているのである。

2 自然の中で学ぶ

(1) 野外旅行 (wilderness trip)

すべての新入生に最初の経験として25日間の「野外旅行 (wilderness trip)」が科される³⁾。「野外旅行」では共同の野外生活を体験する中で、自然を傷つけない野外生活の方法 (leave no trace) や水の浄化法、テントの設営方法、地図の読み方、用便の方法に至るまで徹底的に野外生活のスキルと、共同して行動する事を学ぶ。キャンピングや登山などの共同野外行動の他、4日間、1人だけで過ごす「孤独経験」(solo experience)、自然観察路を整備する3日間のサービス・ラーニングが含ま

れる。

「野外旅行」では野外スキル等の有用な技能も習得されるが、眼目はむしろ人格の成長にある。いくつか特徴的な活動をあげるならば、「強い輪 (strong circle)」、「リーダーシップ・チーム」、「黙想」、「孤独経験」などをあげることができる。

たとえば「強い輪」では、何か問題があった時などに、メンバーのだれかが「強い輪」を要求すると、その時点ですべてのメンバーが活動を中止し、肩を組んで一つの輪を作り、

- ・今、我々は何を考え、感じ、必要としているのか
- ・問題は何か、何が葛藤を引き起こしているのか、
- ・我々の全てが同意できる、可能な解決法は何か。

などを話し合い、すべてのメンバーから解決法についての約束を取り付けて、問題に取り組む。この活動の過程でコミュニケーション能力や公正なリーダーシップを培う。

「黙想」は、息を吐き、止め、吸い、止めるという繰り返しをゆっくりと行い、この間、呼吸に心を集中させて、雑念を去る活動である。最初は1分間行うが、徐々に時間を延ばしていく。「黙想」により、「思考と感情の中心に安息を見出し」、「衝動性を減少させる」ことをねらっている³⁾。

「孤独経験」は各人が、15 フィート×15 フィートの区画のテントの中で、他の生徒と一切の接触を持たず、本も時計もない状況で、自分を振り返り、今後の自分を考える活動である。この間、生徒は、沈黙を守り、「自分への手紙 (Letter to Self)」を書き、振り返りの課題を行う。「自分への手紙」は未来の自分への手紙である。成長し、現在とは異なった自分、自分自身を当惑させないようになっている未来の自分を想定し、そのような自分になるため、自分がなすべきことを考え、目標を立てる。その手紙に封をし、記名する。手紙は教師により回収され、1年後、手元に戻ってくる。

振り返りの課題は、「自分が幸福だと感じることを25種あげてみよう」「私が、私のグループに与えているイメージはどんなものだろう、私はそのイメージに満足だろうか、もしそうなら、それはなぜだろう。そうでないならば、どう自分を変えればいいのか」

「この数日で自分やまわりの人々に見られた肯定的な変化の例をいくつか挙げてみよう」など16種用意されている。

「野外旅行」の最終日、イーグル・ロックに帰る日には、最後の6マイルを走って帰り、それを在校生や教師、父母が出迎えて歓迎する。

「野外旅行」の終了後、新入生と野外経験担当の教師は全校の教師・生徒への報告会を開く。そこでは各人が、イーグル・ロック入学前の自分と、「野外旅行」での自

分の成長を振り返り、未来への計画を語る。

ブルックハート校長は「野外旅行」の有効性を問う筆者の質問に対して次のように語っている。

—wilderness tripは大変成功していると考えている。一例で言えば、1993年、最初の生徒が学校に来た時には、生徒と一緒にここ(イーグル・ロック)で夕食を摂り、いろいろと質問をしたが、彼らはなにも言わずに食事を食べ、黙って立ち去った。彼らは質問に答えたくなかったし、言葉をかわそうとしなかった。生徒が、wilderness tripから帰って、一緒に食事をとると、彼らは自ら話し始めた。とても重要な変化はお互いに言葉を交わし話し合うように変化したことだ。

wilderness tripから帰る最後の日には、5マイルを走ってイーグル・ロックに帰って来る。生徒もスタッフも親も盛大に歓迎する。

ゲームもテレビも電話もCDも本すらない自然の中の生活をする中で、生徒たちはキャンプファイヤーを囲んで会話をおこなうようになった。彼らは「人間本来の状態 (natural state)」に戻っていたのではないか。車座になってティーンエイジャー達は話し、話し、話す (talk talk talk)。—

(2) カリキュラムに組み込まれた学際的野外経験

イーグル・ロックには「野外経験 (Wilderness)」という野外教育の専門職団体の認証(初等中等教育のプログラムでは全米で10校)を受けた独立の教科と専門の教師が存在する。「野外経験」では、野外教育についての専門的訓練を受けた教師が、ロッククライミング、スキーなどさまざまな野外活動を指導するが、ほとんどの場合、野外活動は単独で行うと言うよりも、理科など他の教科と組み合わせられた学際的学習の形式を取っている。

2009年夏学期(5月~7月)に開設されている科目に例を取ると、「マウンテン・バイクの物理」は、マウンテン・バイクを使い、力、運動等の物理概念を学ぶと共に、エステス・パークやボールダーの野外コースでバイクの実地体験を行う「野外体験」と理科、数学の組み合わせである。また「コロラド・ロックス!!」は「岩の勇士達の道(登山のためのメンタル・トレーニングを扱った本)」などの書籍の読書(文学)と登山(野外経験)、地質(理科)の組み合わせである⁵⁾。

今後は日本でのインタビュー調査等とこのイーグル・ロックの調査結果をつき合わせ、日本の教育への示唆を探る予定である。

謝 辞

通訳としてご尽力いただき、またインタビューに際しても御助言いただいた名古屋大学大学院博士課程の神山

智美氏に感謝する。

本研究は住友財団研究助成「環境教育と学力向上を一体的に推進する環境教育モデルの構築」の一環として行われたものである

参考文献

- 1) Hoody, Linda: The Educational Efficacy of Environmental Education, 27, State Environmental Education Roundtable, 1997
- 2) Easton, B. Lois: Engaging the Disengaged: How

Schools Can Help Struggling Students Succeed, 239, Corwin Press, 2008

- 3) Eagle Rock School Wilderness Journal, Eagle Rock の Wilderness の授業で使われている資料集
- 4) Palmer, Mark: Fellows Move On, Eagle Eye, 17(2), 5, 2009
- 5) Eagle Rock School and Professional Development Center: 2009 summer trimester, http://eaglerockschool.org/data/files/directory/LearningExperienceFiles/courses_at_ERS.pdf
2010年11月5日閲覧